



中国日本商会

今どきコラムー89

中国雑談

### メディアが注目する山東省

最近、山東省がニュースで取り上げられることが多い。基本的にはすべて社会ニュースで、筆者の分析対象ではないが、あまりに熱い話題となるため、感慨深い。

2019 年末時点の山東省の常住人口は 1 億人を超えていて、地域総生産額（GDP）は 7 兆 1067 億 5000 万元であり、一人当たりの総生産額は 7 万元を超える。山東省の人口は中国で第二位、GDP は第三位であるが、一人当たり GDP となると八位である。未来を展望すると、広東・上海が飛躍的發展を遂げた後、山東省は大いにチャンスがあるはずだが、現在さかんに流れる社会ニュースからみると、山東省はこのチャンスを逃す可能性がかなり大きいと言えよう。

以前の数年間、東北三省が人口を流出させている主な地域であったが、2019 年になると山東省が純流出数が最大の省となった。GDP は依然としてとても大きい、成長速度の中国における順位はずっと下がり続け、毎年一段ずつ下がっていった結果、4 年で 10 位も下がってしまった。2016 年の GDP 成長速度は 7.6% で全国第 16 位であり、2017 年は 7.4% で全国 17 位、2018 年は 6.4% で全国 22 位、2019 年は 5.5% で全国 26 位であった。人口流出は経済の減速による必然の結果であろう。山東省は「第二の東北」となるのだろうか。世論はひそかに数年後について討議していたが、2020 年になると突如としていくつかの社会的ニュースが流れて、多くの人が山東省により関心を寄せるようになった。

日本では数年もの間、「市町村合併」が猛烈な勢いで行われたが、山東省と比べると、山東省のほうがはるかに徹底的に行われ、あっという間に多くの農村の解体が強行された。日本では今でも激しい進学競争があり、有名国私立大学に入るのはたやすいことではなく、



「他人の名をかたって大学に進学する」ようなことはあり得ないだろう。さらには、1904年にドイツ人によって建設された済南駅が取り壊され、取り壊されてから21年後、突然15億円を投資して、古い鉄道駅を再建することが発表された。このことは喩えていうなら、古い東京駅を取り壊し、京都駅のような建築に建て替えた後、さらに近くに古い鉄道駅を模した建物を建設するようなもので、東京の人ならばまずやるはずのない行為といえる。

ちょっと本題をはずれた。山東がこうなったのは、ここの伝統文化に関係がある。孔子や孟子の故郷、儒教発祥の地として、山東は過去2000年余りの間、孔孟を伝承するだけで、革新を行うことがほとんどなかった。官僚になることがだけ大切であり、その他のことはすべて価値がないとされていた。官僚になれば民衆に構うこともなく、村を解体しようと思えば、農民に新しい家を建ててあげる前に、古い村を解体してしまっても問題はない。

官僚本位以外にも、国有企業が巨大な力を持っている。ハイアールなどの企業はあっても、基本的には国有企業と同じ路線を走っている。1億の人口があるため、GDPを上げるには大きな問題はないものの、発展の速度にしても持続可能な発展にしても、山東省はともに問題に突き当たっている。山東という地方には、山東大学などの学術的な基礎の確かな学術機関が数多くあるものの、今まで騰訊（テンセント）や網易（NetEase）、新浪（Sina）、華為（ファーウェイ）、大疆（DJI）などの大型インターネットハイテク企業を生み出してこなかったし、今後もやはり難しいと思われる。

幸いここ2年ほど、山東省サイドの反省を聞くようになってきた。2018年の省共産党委員会書記の「山東はとうとう自分が遅れていることを意識した」という反省、2019年の濰坊市共産党委員会書記の「南方にいったい何を学ぶべきか？」という反省などは、山東に対し、一縷の望みを持たせてくれる。実際、政府官僚の反省の勇氣は高く評価されるべきで、メディアも同様にこれに注目すべきだ。

日本企業（中国）研究院 執行院長